

妙安寺だより 307号

暦の話 ③ 節分

節分というのは、節々の境目をいい、一年に四回ありました。二十四節気の立春・立夏・立秋・立冬のそれぞれ季節の変わり目をみんな「節分」とよんでいました。なかでも立春は冬が終わり、春の始まる日として、人々にとっては重要な意味をもっていました。

「年の内に 春は来にけり 一年を去年（こぞ）とやいはむ 今年とやいはむ」（古今和歌集）
太陰太陽暦であった時代には、正月近辺に立春（2月4日）がきています。日付けと季節とは一定ではありませんでしたから、年内に立春を迎えることがあり、過ぎ去った一年を去年と呼んでいいのか、それとも正月が来るまで今年と呼んだほうがいいのか、と立春が年の境目とされていたことをあらわしています。

実際に、節分のことを年越しというところもあり、正月には、家族全員が集まることが出来なくても、節分には、全員が必ず年を越さなければならないという地方もありました。

現在では、新しい年になると干支（えと）も変わりますが、本来は節分をもって変わり、立春が2月4日の年では、2月3日に生まれた人は前年の年の干支、また2月4日に生まれた人は新しい年の干支となります。

また、八十八夜や二百十日は立春の日から数えて、88日目、210日目にあたります。

日本では、大晦日に鬼を祓う行事があり、これが節分の豆まきの起源で、節分の行事になっていったようです。

いまでも、大晦日に豆をまく所や、大晦日と節分と二度まくところもあるそうです。

豆まきは「年男」が行ないます。「年男」というのは、本来正月の神祭りをつかさどる男のことで、一家の主人のことでしたが、現在では、その年と同じ干支の男性を「年男」と呼ばれるようになりました。

二月の行事案内

2月 7日(日) 午前11時 木 焼 式

午後 1時 節分会 星祭り・方除け祈願祭

午後 2時 豆まき 福引

*正午より、オトキの供養 昨年授受されたお札やお守りは前日までにご持参ください

2月16日(火) 午後 1時より 開山上人並びに歴代先師法要・永代追善法要

※本年度より、お寺での行事や年回忌法要される方は、みなさまとご一緒にお経をお唱えします。

お経の本は、お寺にて準備しております。(15～6人分)

一緒にお唱えるところは、その都度プリントをお渡しいたします。

「地涌の声」功德主の募集

平成22年度の「地涌の声」の功德主を募集しております。

ご希望の月と5000円(ひと月)を添えてお申し込みください。

なお、4月・5月・7月・9月は申し込み済みです

